

## 令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立矢口中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・自らの学習状況を把握し、学習方法を工夫しようとする姿が見られる。また、思考・判断・表現について正答率が上がるなどの成果があった。

#### (2) 課題

- ・基本事項の定着が分野によって弱いところがある。学習内容と絡ませながら、既習事項を適宜復習を行う。また、思考・判断・表現について、一部成果があったが、引き続き、実験を通して理解したこと、実験結果から考えられることをまとめていけるように指導していく。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	全体の正答率は、前年度の校内平均を下回り、区の平均をわずかに下回った。 また領域別正答率は、目標値を下回った。	/	/
第2学年	全体の正答率は区の平均、全国の平均を下回った。 領域別では「身のまわりの物質とその性質」、「気体の性質」では、目標値を上回った。	全体の正答率は、前年度の校内平均および区の平均を上回った。 領域別では「物質・エネルギー」では目標値を下回ったが、「生命・地球」では、目標値を上回った。	/
第3学年	全体的には目標値を下回る結果であった。ただ、各分野において、「日本の気象」の正答率が目標値達成した。	全体の正答率は区の平均を下回った。内容別では区平均を下回った。	全体の正答率は、前年度の校内平均および区の平均を下回った。

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値、区平均、全国平均ともに下回っている。	目標値、区平均、全国平均ともに下回っている。	

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値、区平均、全国平均ともに下回っている。	目標値、全国平均ともに下回っている。	

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値、区平均ともに下回っている。	目標値、区平均ともにわずかに下回っている。	

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テストを定期的に行うことで基礎知識の定着を図る。実験においては実験方法に加えて、実験器具の正しい使い方についても指導する。	実験結果や学習内容について話し合う活動を設け、他者に自身の意見を伝える機会を設ける。 また他者と話し合ったことなどを踏まえて、自身の考えをまとめて文章に表現する活動を多く取り入れる。	まずは学習規律・学習習慣の確立を目指し、机間指導などの際に個に対応した声かけを行う。 また実験を多く取り入れ、体験的な学びの機会を増やす。危険性などを鑑みて行いにくい実験は、ICT 機器を用いて映像などで視覚的な学びにつなげ、生徒の関心・意欲を引き出す工夫をする。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前時の復習や小テストを定期的に行うことで基礎知識の定着を図る。パフォーマンステストなどを行いながら、実験器具の基本的な技能を身につけさせる。	実験時において、生徒自身で考える時間を大切にし、結果から何が言えるか考えさせる。また、授業の際に話し合う活動も取り入れ、自分の考えを発表させる場面を取り入れる。	ICT 機器等を用いて、視覚的に説明を行い、生徒の関心・意欲を引き出し、自ら学ぶ姿勢を育成する。定期的に学びの定着度をふりかえる時間を設け、学習への取り組みを工夫するよう指導していく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期的な小テストや演習の時間を設け、基礎基本の定着を図る。物理分野では、記録タイマーでの運動の記録の取り方について扱い、記録テ	実験時において、生徒自身で考える時間を大切にし、結果を文章やグラフ等で表現することを重視していく。また、授業の際に適宜班活動も	実験の機会を増やし、自分で実験の結果を確かめる機会を増やす。また、ICT 機器を効果的に用いて、視覚的に理解を促し、生徒の関心・意欲

ープの処理の仕方や結果の見方を身に付けさせる。	取り入れることで他者に自分の意見を伝える場を設けていく。	を引き出すことで、自ら学ぶ姿勢を育成する。
-------------------------	------------------------------	-----------------------